



(京都西南部)

芥川の西に位置するこの遺跡のある一帯は、古くから三島地方の中心地であり、また「那家」の地名が残っていることから、嶋上郡衙の所在地に比定されてきた。一九六五年からこの地の調査が開始され成果を挙げてきたが、一九七〇年には宅地造成に伴う調査が実施された。調査区は川西小学校の北西に隣接する地域で、調査面積は造成予定地の未造成分約四五〇㎡であ

大阪・郡家川西遺跡  
ぐんげかわにし

- 1 所在地 大阪府高槻市郡家本町・清福寺町・川西町
- 2 調査期間 一九七〇年(昭45)一〇月～一二月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 堀江門也
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安中期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

芥川の西に位置するこの遺跡のある一帯は、古くから三島地方の中心地であり、また「那家」の地名が残っていることから、嶋上郡衙の所在地に比定されてきた。一九六五年からこの地の調査が開始され成果を挙げてきたが、一九七〇年には宅地造成に伴う調査が実施された。調査区は川西小学校の北西に隣接する地域で、調査面積は造成予定地の未造成分約四五〇㎡であ

る。調査では掘立柱建物一四棟、木簡が出土した井戸一基などの遺構が検出された。井戸は調査区の中央付近にあり、二・五m×二・九mの不整形の隅丸方形の掘形内に、上面で直径一m、底面で〇・九mの大きさをもち、深さは二・八mを測る。底から地表面まですべて川原石を用いた石組がなされており、中央部でやや膨張りがある。この井戸からは木簡のほか、多数の完形の土師器、耳環、鉄鏃などが出土しており、土師器の中には「上郡」の墨書を持つものがある。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「小□□」

61×18×3 021

9 関係文献

大阪府教育委員会『嶋上郡衙跡発掘調査概要Ⅳ』(『大阪府文化財調査概要一九七〇―』一九七一年)

高槻市史編さん委員会『高槻市史』第六(一九七三年)

(鷲森浩幸)